

## まちのカルチャー人たち②

### ピアノの旋律に 思いをのせて

Koji TANAKA

田中紘二さん(48歳)



「ここに来たのは昭和四十九年です。から、かれこれ二十年近くになります。自然環境も良いこの街が気に入っています」

田中先生は練習室のソファに腰掛けて、香芝の魅力を語ってくれました。練習室は二台のピアノが窓を背にして並べられ、白い壁面には友人の製作になるといふ漆作品が飾られていました。シンプル

な練習室には過剰なものがなく、音楽に打ち込めるというような雰囲気。田中先生は練習室のソファに腰掛けて、香芝の魅力を語ってくれました。練習室は二台のピアノが窓を背にして並べられ、白い壁面には友人の製作になるといふ漆作品が飾られていました。シンプル

な練習室には過剰なものがなく、音楽に打ち込めるというような雰囲気。田中先生は練習室のソファに腰掛けて、香芝の魅力を語ってくれました。練習室は二台のピアノが窓を背にして並べられ、白い壁面には友人の製作になるといふ漆作品が飾られていました。シンプル

な練習室には過剰なものがなく、音楽に打ち込めるというような雰囲気。田中先生は練習室のソファに腰掛けて、香芝の魅力を語ってくれました。練習室は二台のピアノが窓を背にして並べられ、白い壁面には友人の製作になるといふ漆作品が飾られていました。シンプル

な練習室には過剰なものがなく、音楽に打ち込めるというような雰囲気。田中先生は練習室のソファに腰掛けて、香芝の魅力を語ってくれました。練習室は二台のピアノが窓を背にして並べられ、白い壁面には友人の製作になるといふ漆作品が飾られていました。シンプル

コンサートに出演して腕ならぬ指を磨き、また大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、東京ソリストなどと共演してこれら。また伴奏者としても知られているとか。

「香芝ではおかげさまで、ふたかみ文化センターの開館記念でピアノ開きコンサートをやらせていただきました。とても良いホールで聞いてくださる皆さんも喜んでもらえたようです。私はソロでショパンのスケルツォ第二番、トリオでメンデルスゾーンのピアノトリオ第一番を弾かせていただきました。機会があったらまたコンサートを開きたいですね」

そういって、ピアノへ向かわれ、おもむろに弾き始めると、部屋の中に音が満ちてくるのが感じられます。指先が流れるように動き、体が歌っている、そんな演奏でした。決して音楽は指先の芸術でなく、人間の体が生み出すものだということ、こうしてまじかにいると良く分かります。

「私自身はドイツ古典派が好きです。ベートーベンなどは偉大な山脈みたいなもの。音楽のすごさを思い知らされます。これからも良い音楽を求めて、もっともっと勉強していきたいと思っています」